

EU懐疑派・右翼に勢い



EU議会選が問う 上

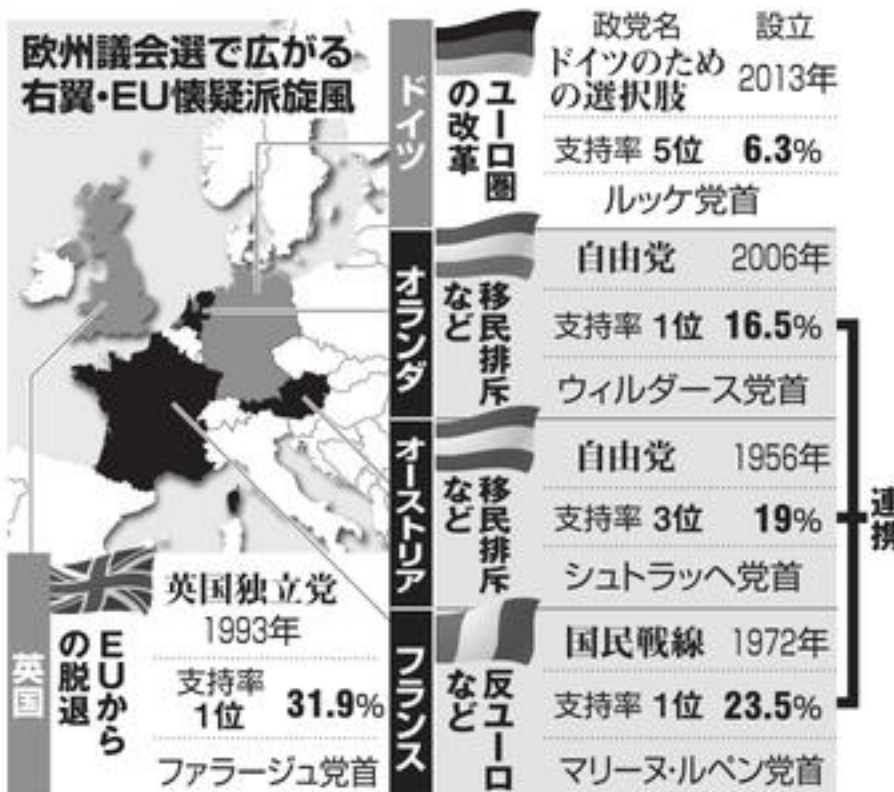
議席3割うかがう

22、25日に、5年に1度の欧州連合(EU)の欧州議会選がおこなわれる。欧州の金融危機後初めてとなる議会選では、右翼やEU懐疑派の政党が大きく躍進し、3割の議席を獲得しそうだ。統合が深まる流れにブレーキがかかるおそれもある。欧州でいま何が起きているのかを、上下2回の連載で読み解く。



パリ・オペラ座前の広場に1日、数千人が集まった。フランスの右翼「国民戦線(FN)」が欧州議会選を前に開いた集会だ。オペラ座には、12の星が青地に円を描く欧州の旗がたなびいている。その玄関を覆わんばかりの巨大なポスターは、ジャンヌ・ダルクが、欧州統合の象徴である星を一旦に吹き飛ばす絵柄が描かれていた。「ブリュッセルにノン」。欧州連合(EU)の本拠ブリュッセルへの反旗だ。「EUへの不名誉な降伏に、背を向ける機会だ」マリーヌ・ルペン党首は、ユーロ導入で暮らしが厳しくなったと説明した。あ

- 欧州議会選では右翼も左翼も議席を伸ばしそうだ (最新の世論調査による)
- 右翼やEU懐疑派の政党
 - ★ECR (欧州保守改革グループ) 現在は57議席→39議席の見通し
 - ★EFD (自由と民主主義のヨーロッパ) 現在は31議席→39議席の見通し
 - ★無所属 現在は33議席→99議席の見通し
 - 計 現在は121議席→177議席の見通し
 - 左翼系
 - ★GUE-NGL (欧州統一左派・北方緑の左派同盟グループ) 現在は35議席→49議席の見通し



広がる「敵を作る政治」

高止まりする失業や、もたつく経済に妙手が見いだせない欧州で、「敵をつくる政治」が広がっている。市民の間のいらだちを「EU」や「移民」に向け、オランダ自由党のウィルダース党首は朝日新聞の取材に「移民規制は必要だ、日本のように。国境も予算も自分たちだけで決めた」と話した。

お手本は日本?

「古代以来の偉大なギリシャの復活」を掲げる極右政党の幹部は「民族で団結している日本を尊敬している」と語った。移民へのヘイトスピーチや暴力事件を繰り返して、党首ら国会議員が逮捕された。敵を明確にする主張は、「左」にもある。

各国で台頭、連携を模索

発言力拡大へ会派結成狙う

右翼やEU懐疑派の政党が支持を集めるのは、欧州各国に共通する現象だ。オランダの「自由党」は移民排斥などを訴える右翼政党だ。今回の欧州議会選を巡る最新の世論調査では、16・5%の支持率で国内首位。オーストリアの「自由党」も、国内3位の19%の支持を集める。ブリュッセルの世論調査機関によると、欧州議会選では、反EUや反ユーロなどEU懐疑派の政党が全751議席のうち220議席以上、全体の3割を占めるとみられている。現在の2割を大幅に上回る数字だ。各国のEU懐疑派の勢力が連携する動きも始まった。オランダの「自由党」のウィルダース党首は、自ら各国を訪ね、EU懐疑派勢力の結集を呼びかけた。昨年11月にはFN、オーストリアの「自由党」との連携を発表した。

欧州議会の会派の結成は7カ国、25人以上の議員が条件だ。会派を結成できれば、議会から予算を受けた委員会委員になったり、用いているだけで、移民は受け入れていない。移民規制が強い日本を、まねるかのような動きだ。